

科目名	アジア仏教思想					単位	2.0
担当教員	見田 隆鑑						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	7205

●授業のテーマ

日本の仏教美術に親しむ

●到達目標

仏像の種類や役割に関する基本的な事項を理解し説明できるようになる。

仏像が造られる背景にある仏教思想や造られた当時の社会状況などにも理解を深め、現代に残された日本の仏像の価値や意味を自分なりに考えることができるようになる。

●学習内容(授業概要)

この授業では日本の仏像(主に彫刻)の代表作品を、日本で仏像が造られ始めた飛鳥時代から時代順に取り上げながら、皆さんが寺社や博物館などで仏像を鑑賞する上で必要となる基本情報(例えば仏像の種類や役割、作られた素材など)を学びます。

合わせて、それぞれの作品が造られた背景にある仏教思想や造られた当時の社会背景などにも目を向けていきます。授業の中では時間的な流れで仏像を見ていくだけでなく、テーマを設定し、特定の視点から仏像の造形について考えることも行います。

授業計画には、シラバス執筆段階での15回分の予定を表記していますが、実際の受講学生の研究テーマなどを考慮して一部内容を変更する場合があります。

内容に関しては極力難解な説明は避け、学生の皆さんが仏像に対して親しみを持てるような講義を目指したいと思います。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. イントロダクション
2. 仏像のはじまり
3. 仏像の東漸—インドから日本への道程—
4. 日本への仏像の伝来
5. 飛鳥時代の仏像①
6. 飛鳥時代の仏像②
7. 奈良時代の仏像①
8. 奈良時代の仏像②
9. 平安時代の仏像①
10. 平安時代の仏像②
11. 鎌倉時代の仏像①
12. 鎌倉時代の仏像②
13. 鎌倉時代以降の仏像
14. 明治の廃仏毀釈と仏像—文化財として保護される仏像—
15. 全体のまとめ

●準備学習・事後学習の内容

授業では写真や映像を使って作品を紹介していきますが、自分の足で現地を訪れてみることや、実物を自分

の眼でみるのが皆さんにとって最もよい学びにつながると思います。授業の中で関心をもった作品があれば、機会をつくって実物を見に行くようにしてください。

●成績評価方法・基準

成績は授業への参加姿勢と授業後に提出してもらったレポート課題を合わせて評価します。筆記試験は行いません。

●テキスト（必携）

●参考文献／その他

副島弘道監修『イラスト図解 仏像 オールカラー 仏像の基本知識と特徴、見方がよくわかる』（日東書院）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社）、その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

●履修上の注意

この授業は8月後半に3日間連続で行われる集中講義です。